

“産業の米”ベアリング製造は大崎から。 ものづくり100年の歴史に輝く、大崎発展の担い手「NSK」

過去から現在、未来へと受け継がれていく「ふるさと大崎」のDNA(原風景)を訪ねる「おさき今昔物語」。

その第三十話は、1914年(大正3年)、現「大崎ニュー・シティ」の所在地に工場を創設し、我が国初の軸受(ベアリング)誕生を実現した「日本精工(NSK)」の話。

軸受製造を通じて草創期の日本の機械工業発展を支えたものづくりのフロンティアは、また、大崎の再開発を牽引した“まちづくりの先駆者”でもありました。

昭和初期(1930年頃)の日本精工株式会社本社・本社工場



NSK本社ビル(日精ビルディング)



「大崎駅周辺地域」の大規模な再開発の起点となった大崎ニュー・シティの竣工



1966(昭和41)年頃の大崎工場界隈

History of NSK

- 1914年 高橋足清ら4名の協力を得て、山口武彦氏、日本精工合資会社を創業
本社を東京市京橋区南伝馬町3丁目に、本社工場を東京府荏原郡大崎町字居木橋410番地に設置
- 1915年 軸受の開発に成功
- 1916年 軸受生産を開始(日本初の軸受量産化)
- 1916年 日本精工株式会社創立(資本金35万円、社長山口武彦氏、従業員217名)
- 1917年 本社を本社工場所在地に移転
- 1926年 日本初の軸受鋼球国産化
- 1945年 終戦によりNSKの全工場を閉鎖
- 1950年 大形軸受専門工場として、大崎工場への生産許可に伴い生産再開
- 1966年 大崎工場の生産設備を産沢、多摩川工場に移管、大崎工場での生産を終了
- 1970年 旧大崎工場にNSKの生産設備機械開発設計部門が移転
- 1978年 設備開発部、旧大崎工場から藤沢へ移動
- 1984年 大崎駅東口に再開発ビル「Ohsaki New-City」起工
- 1987年 再開発完了に伴い大崎新本社へ移転、業務開始



写真上は、日本精工株式会社創立5年後の1921(大正10)年の大崎工場軸受検査場、日本で初めて軸受の量産化を実現し、製品検査は真剣そのもの。また写真下は、同じ頃の研磨工場室内。数名の作業員が就業中、軸受製造の重要な工程となる研磨作業に熱がこもります。当時はまた、工場の前を流れる目黒川の氾濫も度々起こり、その度に浸水の被害に見舞われるなど、その頃の大崎ならではの草創期の苦勞も少なくありませんでした。



日本精工株式会社創立直後(1917年)の工場位置図
目黒川の河畔に建つ本社工場。100年の歴史を経て今日の大崎ニュー・シティの景観へとつながっています。

大崎の発展を牽引した再開発発祥の地として2016年(平成28年)に創立100周年を迎えたNSKは、今では独自技術で世界をリードする一大グローバルカンパニー。その基盤を1966年(昭和41年)まで支え続けた大崎工場は、軸受の生誕地としての歴史の上に、さらに今日の大崎発展の源ともなった再開発発祥の地としての歴史を、「大崎ニュー・シティ」の自社ビルの地に刻むこととなります。1987年(昭和62年)に完成した「大崎駅東口第1地区」の再開発を地権者として積極的に推進、大崎のまち全体の発展へ、その牽引役としての役割を果たしたのです。工場跡地に建つ再開発ビル「日精ビルディング」の偉容は、大崎のまちの発展と共にあったNSK100年超の年輪を今に伝えていきます。

軸受製造の
パイオニアとして



NSKに現存する最も古い図面をもとに復元した、国産化達成当時の軸受

▼1934年(昭和9年)当時の航空機エンジン用軸受



大崎再生の先駆け「大崎ニュー・シティ」に屹立する軸受のリーディングカンパニーNSK



山口 武彦 氏

大崎は、日本のベアリング生誕の地
身近な家電製品から自動車、鉄道車両、建設機械、鉄鋼設備や風力発電機、さらに航空機や人工衛星等に至るまで、あらゆる産業界に20万種類以上の軸受を供給し続けてきたリーディングカンパニー「日本精工」(※以下、NSK)。その軸受づくりの歴史は、ここ大崎から始まっています。1914年(大正3年)、創業者・山口武彦氏により創設された「日本精工合資会社」の本社工場として、当時の東京府荏原郡大崎町字居木橋410番地に産声をあげた。日本のベアリング生誕の地。それは、大崎の現在の繁栄とおよそがけ離れた殺風景な田園地帯の一角、隣地には屠牛場と牛舎数棟があるだけの未開拓ゾーンでもありました。ここから100年超の歴史を重ね、世界に名だたるNSKの軸受や自動車部品、精密製品づくりの先進技術が育まれていったのです。

「産業の米」とも呼ばれ、あらゆる機械の円滑・効率的な駆動に不可欠なものとされる「軸受」(ベアリング)。「日本精工(NSK)」は、すでに100年以上も前から欧米の先進技術に学びつつ日本での軸受の開発製造に向け技術的努力を傾注、日本精工株式会社創立の年(1916年)には晴れて日本初の軸受の量産化を実現したのでした。そして、その価値ある歴史を伝える製造工場跡地には、大崎の新しいまちづくりの灯がともされ、今日の大崎発展への歩みが始まることとなります。